

水遊びが楽しい季節だ。しかし、今夏は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、水泳の授業を取りやめる学校や、営業を中止するプール施設が少なくない。代わって注目さ

れるのが自宅用のビニールプール。幼い子どもにとって水遊びは、水の危険を体で覚える意味でも重要だ。安全に注意しながら楽しみたい。(長田真由美)



カラフルなビニールプールが並ぶ売り場＝名古屋市西区のイオンスタイルワンダーシティ店で

## 自宅でプール

# 水のリスク 学ぶ機会に

カラフルなビニールプールが並ぶ名古屋市西区のイオンスタイルワンダーシティ店。八十五センチ四方の小さいものから、全長三層の大きいものまでサイズもさまざま。価格の主流は二千～三千円。担当者は「六月最後の一週間で八十個を売り上げた」と喜ぶ。同月下旬までの東海エリアのイオ

ングループの売上額は昨年の二倍に上っている。

「学校での水泳の授業は水のリスクを知り、身を守る方法を学ぶのに大事だった」と話すのは、愛知教育大准教授の寺本圭輔さん(四七)。海開きの行方も各地で不透明な今、「家庭で水遊びをする時間を確保して役立ててほしい」と話す。

水難学会会長で、長岡技術科学大大学院教授の齋藤秀俊さん(五七)によると、事故に遭った際は「浮いて待て」が鉄則。三歳ぐらいからビニールプールでも練習できる。力を抜き、おおむけで浮くだけだ。足は沈みやすいため靴を履いたり、ライフジャケットを着たり

## おおむけで浮く練習

すると浮きやすくなる。「顔は水につけられなくても浮ける子は多い」と話す。ビニールプールでも事故への注意は不可欠。乳幼児の場合、水深十一二十センチでも起き上がれずにおぼれる危険がある。子どもだけで遊ばせない、絶対に目を離さないことが重要だ。熱中症予防としてプールに入る前後は健康状態を確認。帽子をかぶらせたり、ラッシュガードを羽織らせたりすることも心掛けよう。

水遊びに使えるおもちゃの作り方を児童センター「とだがわこどもランド」(名古屋市港区)のスタッフに教えてもらった。



「ガチャガチャカプセルじょうろ」(手前)と「バルーンポート」

0～1歳児には「ガチャガチャカプセルじょうろ」。「ガチャガチャ」の呼び名で知られるおもちゃのカプセルに、フィギュアなど好きなものを入れてふたをする。沈めると底に開いた穴から水が入り、じょうろのようにして遊べる。振るとマラカスのよ

## 身近な物で水遊びおもちゃ

うに音がするのも楽しい。

幼児向けには「バルーンポート」。風船にストローを差し込み、継ぎ目を粘着テープで巻く。それを箸などで側面に穴を開けた発泡スチロール製のトレーに差したら完成だ。風船を膨らませ水に浮かべると、空気力で前に進む。

小学生なら「消える絵」＝右図＝がおすすめ。紙にリンゴを油性ペンで描き、チャック付きポリ袋へ。その袋にリンゴの芯を描いて沈めると…。水に漬かっている部分は紙に描いた絵が消え、袋に描いた芯だけが浮かび上がる。水と空気の光の屈折率の違いを利用した現象だが、親子で理由を考えても面白い。

